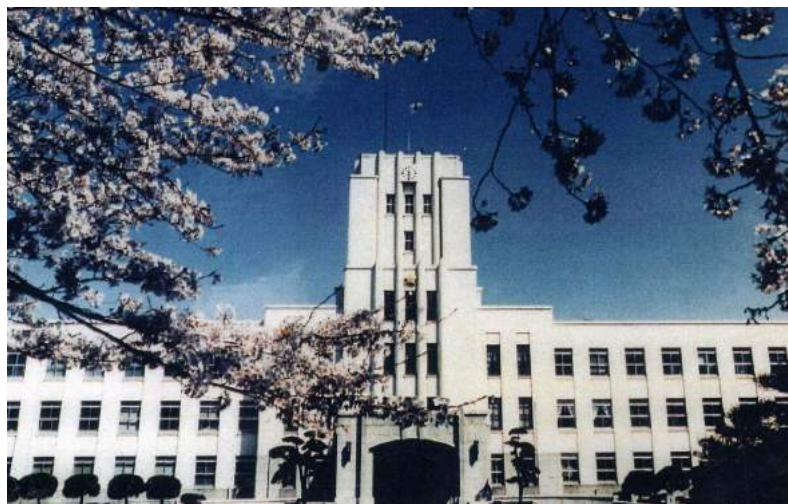




清風会

離島防衛

視察研修報告

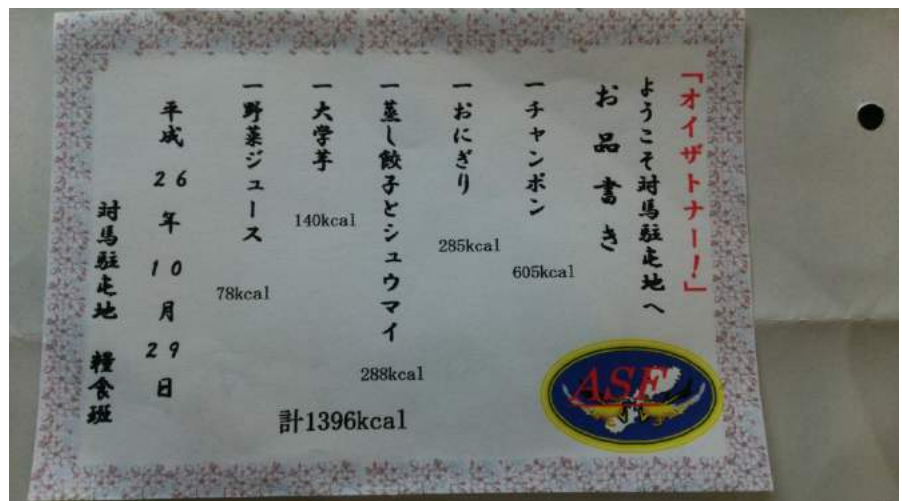


一般社団法人 清風会 広報委員会



対馬





対馬駐屯地とは、長崎県対馬市厳原町棧原 38 に所在し、対馬警備隊等が駐屯する陸上自衛隊の駐屯地である。西に朝鮮半島、東に九州を臨む国際海峡の真ん中に位置する対馬にあり、地政学上チョークポイントとされる国家防衛の要衝である。

対馬警備隊への研修を終えて”

平成 26 年 11 月 25 日(火)

GIAS 清風会会長 古川原 直久

本年 10 月 29 日(水)～30 日(木)にかけて昨今とりわけクローズアップされてきた
国境問題に関わる多くの防衛問題に強く意識が向き始めたところで対馬訪問をすることができました。

日中関係、日韓関係と、とにかく我が日本において切っても切れない間柄であろうに
ギクシャクが続いている現状です。そこで我が清風会としても手始めに日韓国境の最前線を実際に見てみた
い、さらに最前線の部隊を見に行きたいという衝動もあったが、さて、
じゃどこだと探し始めたところが国境の最前線の島、対馬であった。私も初めて行く島
でもある。結論として訪問出来て良かった、の一言だった。

やはり人から聞くより自分の目で見て観察してみることが重要であった、とつくづく
思い知らされた。行動計画全般に亘り本当に良く計画され助かりました。ただ 1 泊 2 日と短期間なので、あと
2 泊くらいしたら全島隅々まで視察できただろうなと思ったと同時にある意味無謀な日程調整をして戴いたこ
とに恐縮しております。

訪問を終えて島全体についての意見と防衛上についての意見の 2 点について述べさせていただきます。
まず、

①この島の遺跡を何とか保存することが出来ないのか？

これだけ無数の戦前、戦後における遺跡がそのまま無造作に放置されていることに対して、何故？と思う位
大切にしないのだろうか？と考えさせられた。そこには、観光客として
来ているのは、国境の国、韓国からのツアー客だけであった。何故、日本人観光客が
来ないのか？不思議な思いであった。

②日本本土からの観光客の少なさというよりほとんど我々位しかいないのに驚いた！

韓国人観光客年間約 18 万人とのこと、日本本土からは、数万人、やはり本土からの中途
半端な遠さから敬遠される？それと対馬に対しての魅力不足も影響しているのか？

③自衛隊がいなかったらどうだろうか？と考えたら、さらに過疎化するだろうと思った。

まだ沢山の事があるだろうが、とにかく寂しい限りだ。

次に防衛上の意見としては、3軍(陸、海、空)が常駐し同時にうまい具合に運用がされていることは、他の部隊に対しても良いお手本になるだろうと感じた。しかし以下の2点について述べさせていただきたい。

①何故、3軍(陸、海、空)が揃っているのに島に1機もヘリコプターが常駐していないか？ということへの不安が感じられた。

これだけ国境問題がクローズアップされているのに何故、対岸の韓国まで約49キロメートル、かたや福岡まで約110キロメートルなのに何故に常駐していないのか、と大変大きな疑問と不安が残った。因みに航空自衛隊の海栗島分屯基地から対馬市の中心地、厳原町には、車でしか移動手段がなく片道約2時間半以上かかりますが果たしてこれで良いだろうか？緊急の際は、これが逆に自衛隊員の体力消耗と時間の無駄につながらないかと疑問に思う。

②何故、3軍(陸、海、空)が揃っているのにレクリエーション施設が自前でそろえられていないのか？

若い隊員のストレスを考えたら当然出来得る限りの教育訓練的な指導の一環として自衛隊は、これら施設をそろえていなければ若い隊員の存亡に関わってくると思われる。わざわざ自分でお金が貯まったらフェリーないしは、飛行機で福岡市に羽をのばしに行くそうだし、果たしてそれだけで良いか？とても疑問でもある。そのストレスは、語り知れないくらいに累積していった時には、どうするのか？

せめてレクリエーション施設ないし体力回復面を支えられるべき施設は、自前で持つべきと考える。これらの他にももっと隊員から意見を吸い上げたらきりがないのであろうが、現在の若い隊員たちの思いのひとつ、ここ対馬のみならずこれからの離島防衛に携わろうであろう隊員の思いと全国自衛隊員の切なる思いを少しでも緩和する為に教育訓練的な一環としてぜひレクリエーション施設の充実をしてあげることがとてもこれからの若い隊員の為に重要であると感じられた。たとへば、自前の施設に行けば、運動をして汗を出しストレス発散ができて、さらに、マンガ本、又は、DVDを見ながら手、足、頭、と体全体を癒し心のケアをする為の機器と雑誌等の充実によりゆったり出来ることが隊員の健康チェックと健康増進とストレス解消と心体鍛錬をすることにより戦力回復につながり、ひいては、隊員の教育訓練の面へとつながるのではないかと痛切に感じた今回の対馬研修であった。

終わりにこの計画を策定し、ご協力戴いた陸幕防衛課並びに編成班員に対して心から御礼を申し上げたいと思います。そして現地でご対応戴きました陸上自衛隊対馬警備隊の三塚隊長はじめ隊員の方々並びに海上自衛隊の対馬警備隊基地司令はじめ隊員の方々と航空自衛隊の海栗島分屯基地司令はじめ隊員の方々に一方ならぬお世話を戴いた事に清風会を代表しまして厚く御礼を申し上げます。感謝いたします。

これを機会に対馬の人たちの“対馬の思い”がさらに全国に伝わる事が出来ると良いと思い記してみました。誠にありがとうございました。

以上

陸自「対馬駐屯地」研修を終えて

(一社)清風会 理事太田博己

清風会での初めての離島防衛研修として、対馬駐屯地(防備隊)を視察することが出来ました。

対馬は歴史的に他国より侵略を受けたり、一時一部占領された事もあったみたいです。釜山から50キロに満たない位置にあり、明治には要塞も作ったし朝鮮半島の有事を見据えて、戦後も昭和37年頃より、陸、海、空の自衛隊が警備隊や監視隊を常駐し、防備にあたっているとのことでした。しかし、実際に海自の警備隊の施設を見学した時、隣地の民宿が韓国資本に買収されていたという事実にショックを受けました。防衛施設の隣地なのでこんなことは他国では絶対に考えられないし、外国資本(特に韓国、中国)の土地売買には何らかの規制を設けるべきだと思います。対馬の人口3万1千人の町に年間36万人もの韓国人旅行者が訪れ一部の商店は韓国人旅行者なくして営業が成り立たない店もあるというし、旅行ガイドの一部には対馬は本来韓国の領土などと言っている輩もいるみたいです。

町のいたる所にハングル文字の看板が氾濫し、どこまで韓国化が進んでいくのだろうか?と今後の対馬を考えた時、少しばかりの焦燥感を覚えた対馬研修でした。



結局食べられませんでした！
イカを乾燥する機械、回転してい



蒙古襲来の地

対馬沿岸におびたしい数のモンゴル
帝国軍の船が到着し、そのうち、約 1000
人のモンゴル兵が対馬へ上陸。日本側
は約 80 人で戦った



韓国人の碑

元禄 16 年（1703）旧暦 2 月 5 日朝、108 名乗りの訳官使船は、釜山を対馬に向け出発しましたが、急変した天候のため、鰐浦を目前に遭難、全員が死亡するという悲惨な海難事故に見舞われました。事故の史的背景が善隣友好を基底とした国際交流であ



自然豊かな海と山
上見坂公園より

上見坂公園

上見坂堡壘は、明治 34 年から 35 年にかけて、厳原町内陸部に築造された堡壘（ほうるい。防御型陣地）です。戦後に上見坂公園として整備され、駐車場、トイレ、芝生広場、歌碑などが設置され、展望所からはリアス式海岸が望める・



航空自衛隊

海栗島（うにしま）は、長崎県対馬市に所在する島。大韓民国まで直線距離で約 40km。国境の島と言える。面積 129,766m²、海岸線は約 4km。対馬市に所在する 6 個の有人島のうち、対馬本島と埋め立てや橋梁で地続きとなっていないのはこの島だけである。地名の由来は、良質なウニが採れることから。全域が国有地であり、航空自衛隊の海栗島分屯基地（所在部隊は西部航空方面隊西部航空警戒管制団第 19 警戒隊）となっている。





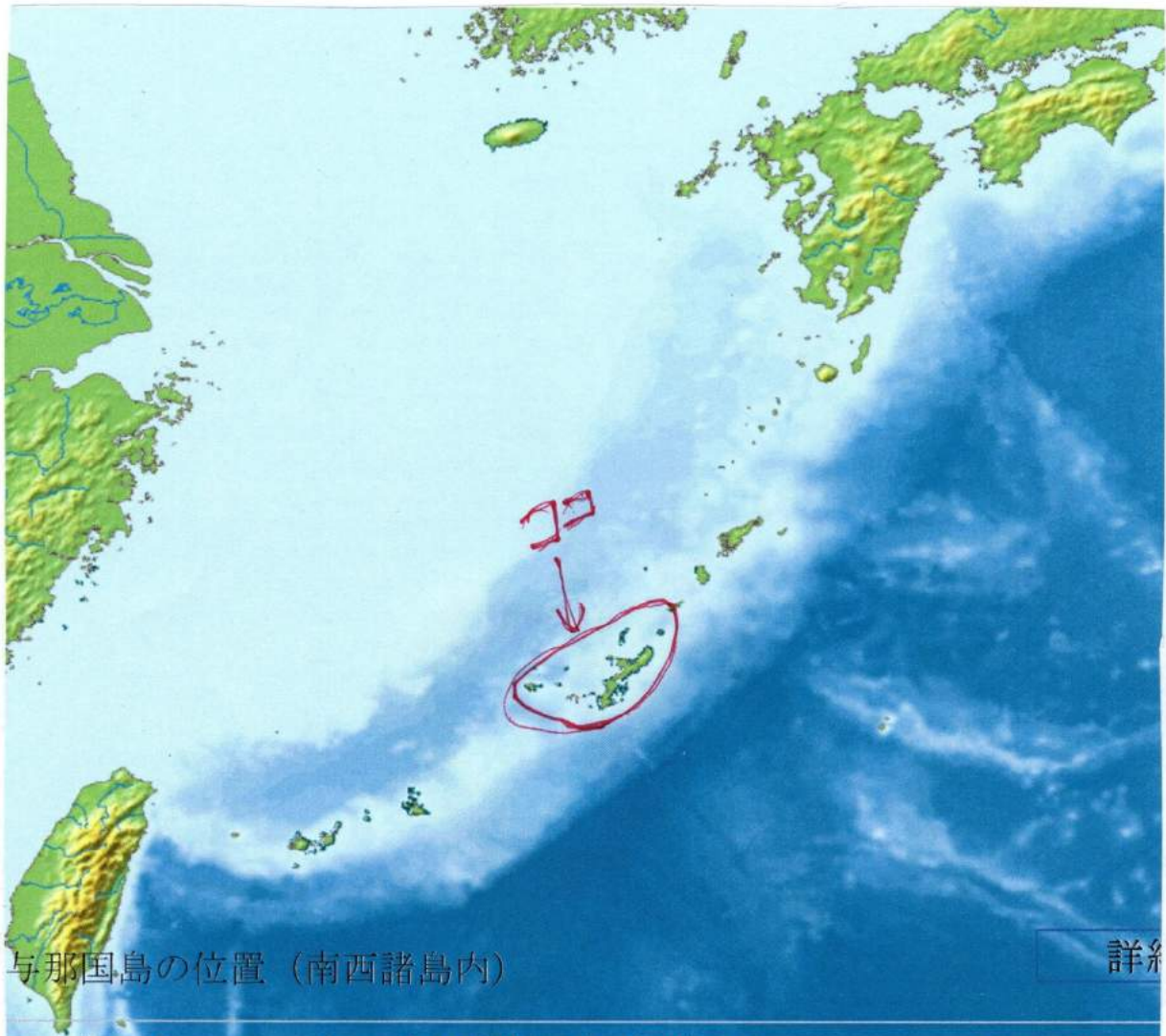
「清風会」 部隊研修

航空自衛隊海栗島分屯基地(平成26年10月30日)





沖繩



与那国島の位置（南西諸島内）

詳細

Jackpoid

Image:Topographic:padeg_NoE120.png

CC 表示-継承 3

Image:Topographic:padeg_NoE120.png



清風会 沖縄研修ハンドブック

平成29年3月9日～11日
陸 幕 防 衛 課

清風会 沖縄研修全般予定表

月日(曜)	行動の概要	
3月9日 (木)	0620 羽田空港 (JAL) 901便 0905 那覇空港 0930 那覇空港	1000 第15旅団【陸自】 ○写真撮影、旅団長表敬 ○概要ブリーフィング ○装備品展示、広報資料館 ○会食 ○不発弾処理展示(25') 1320 那覇空港 1330 第6航空団等【空自】 ○概要ブリーフィング ○F-15等研修 ○戦跡(砲台跡)研修 ○厚生センター等 1530 那覇空港 1600 宿舎 1800 懇親会 ○ホテルグレイスリー那覇 ○コンフォートホテル那覇風岸前
3月10日 (金)	0620 宿舎 0640 那覇空港 (RAC) 721便 0720 那覇空港 0900 与那国空港 0930 与那国空港	1000 与那国沿岸監視隊(陸自) ○隊長表敬 ○駐屯地内施設等研修 ○会食 1230 与那国空港 1300 島内研修等 1530 与那国空港 1600 宿舎 1930 懇親会 ○エデンの森
3月11日 (土)	1000 宿舎 1050 与那国空港 (RAC) 724便 1150 那覇空港 1310 那覇空港 2000 那覇空港 (JAL) 920便 2210 海浜空港	

沖縄研修時程表(3月9日(木))

時間	項目	概要	場所	備考
0620~0905 (165')	移動	羽田空港 ~ 那覇空港	—	JAL901便
0905~1000 (65')	移動	那覇空港 ~ 那覇駐屯地	—	時間調整の後、タクシーにて移動
1000~1005 (5')	出迎え受け 記念撮影	旅団長の出迎え受け後、記念撮影	15旅団司令部 庁舎前	雨天時、庁舎2階ロビー
1005~1015 (10')	表 敬	第15旅団長表敬	応接室	副旅団長、竹永2佐同席
1015~1045 (30')	概況説明	第15旅団の概況	会議室	
1045~1115 (30')	研 修	地下壕研修	駐屯地地下壕	マイクロバスにより移動
1110~1125 (15')		装備品展示(短SAM、NBC偵察車、中距離 多目的誘導弾)	司令部庁舎西側	マイクロバスにより移動
1125~1210 (45')		戦史模型による展示	広報資料館	
1210~1250 (40')	会 食	旅団長との会食	会議室	
1250~1320 (30')	研 修	不発弾処理展示	広報対応室	
1320~1330 (10')	移 動	那覇駐屯地 ~ 那覇基地	—	タクシーにて移動 空自基地正門にてマイクロに乗車
1330~1530 (120')	空自研修	概況説明受け、F15、戦跡(砲台跡)、厚生セン ター等研修	空自那覇基地内	基地内は、第9航空団の 輸送支援受け
1530~1600 (30')	移 動	那覇基地 ~ 宿泊地	宿泊先	空自基地正門にてタクシーに乗車
1800~2000 (120')	懇親会	懇親会	沖縄市内	旅団長、副旅団長等参加

12

沖縄研修時程表(3月10日(木))

時間	項目	概要	場所	備考
0620~0640 (20')	移 動	宿泊先 ~ 那覇空港	—	タクシーにて移動
0720~0900 (100')	移 動	那覇空港 ~ 与那国空港	与那国空港	RAO 721便
0930~1000 (30')	移 動	与那国空港 ~ 与那国駐屯地	与那国駐屯地	レンタカーにて移動
1000~1005 (5')	出迎え受け 記念撮影	沿岸監視隊長の出迎え受け後、記念撮影	本部庁舎前	
1005~1015 (10')	休 憩	休 憩	第2会議室	
1015~1030 (15')	表 敬	与那国沿岸監視隊長表敬	隊長室	副隊長、竹永2佐同席
1030~1055 (25')	概況説明	与那国駐屯地の概況	第1会議室	
1055~1100 (5')	研 修	駐屯地等全般確認	本部庁舎屋上	
1100~1130 (30')		厚生施設(売店・食堂)、医務室、生活隊舎	駐屯地施設	マイクロにて移動
1130~1200 (30')	休 憩	休 憩	第2会議室	
1200~1230 (30')	会 食	与那国沿岸監視隊長との会食	駐屯地食堂	
1230~1530 (180')	研 修	与那国島内研修(終了後、宿泊先に異動)	—	レンタカーにて移動 ※ 隊員同乗にて案内受け
1930~2100 (90')	懇親会	懇親会	沖縄市内	沖縄地本長、副旅団長等参加

25



第9航空団に
て全員集合、体
験搭乗して皆
少年の顔に

スクランブル発進待ち F15



不発弾の数々



ジオラマを使っでの説明



首里城入口 守礼門



建物も人々も 成功にできたジオラマ いまにも
動き出しそうな人々

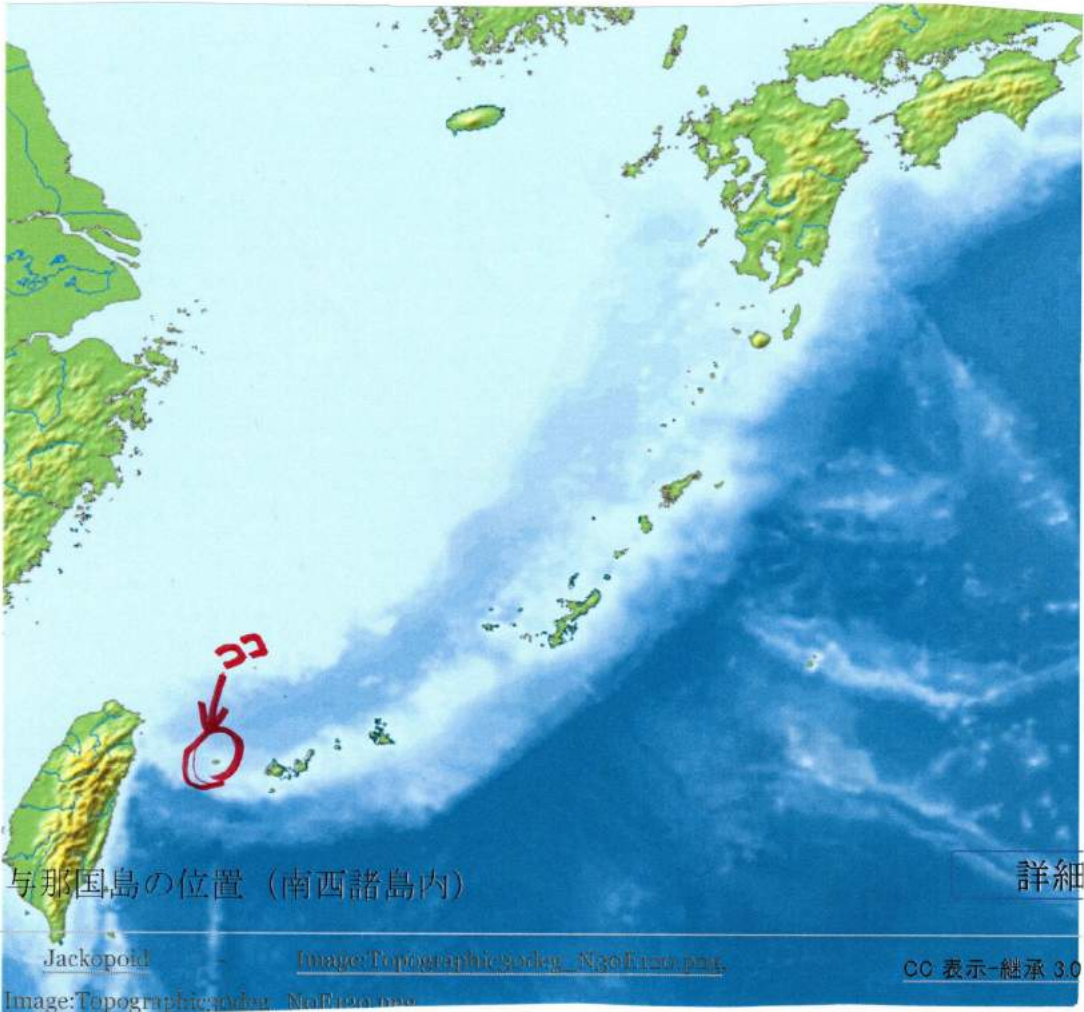


清風会 第15旅団研修記念
平成29年3月9日(木)





与那国島



与那国沿岸監視隊(駐屯地等)の配置



平成 29 年 3 月 9 日（木）～11 日（土）にかけて兼ねてより計画しておりました離島防衛最重要地への研修会を会員 6 名と防衛課随員 1 名の計 7 名で実施致しました。

沖縄第 15 旅団への表敬訪問は、まず原田旅団長及び伊崎副旅団長との記念撮影から始まり旅団長との懇談とその後ブリーフィング、さらに部隊見学、装備品展示説明、記念館見学後沖縄地本長井戸川本部長合流のもと原田旅団長以下幹部の方々との昼食をした。その後、懇談をしてから原田旅団長への御礼を述べて一路タクシーにて第 9 航空団へと続いた。

第 9 航空団では、辻副司令官と面談をしてから部隊見学と F15 の見学もし、皆いたく感激をしていた。ついでに操縦席まで乗せてもらいまるで子供に戻ったようにはしゃいでいた。その後部隊施設等の説明を聞きながら見学をしたらアツという間に夕方になり、近くのモノレール駅まで送ってもらい宿泊予定ホテルに向かった。

その夜は、那覇の国際通りのお店で第 15 旅団長以下幹部の方々が多いに盛り上がる懇親会をさせて頂いて初日の研修会を終えた。

翌日は、今回の目的地でもある与那国沿岸監視隊への訪問であったが早朝から行動し那覇空港より与那国島へ向けて飛び立つが天候不良により急遽石垣島空港に降りることになった。そこで待機状態を初めて経験した。ここでもまたハプニングはありましたが 1 時間後全員で再度与那国島空港へ飛び立つことが出来た。しかしまた天候不良で与那国島上空を 1 時間以上旋回してようやくお昼 12 時過ぎに何とか与那国島空港に着陸することが出来た。何とその時に乗客から拍手まで出るくらい緊張の連続だったのだ。これも久しぶりの経験だった。これが与那国島を別名“どなん島”と呼ぶ所以だと空港の売店の地元の人から教えられた言葉だった。ところが我々が降りてから部隊へ行くまでの間段々天候が回復してきたのだった。

そしてどうしても訪問したいと思い 1 年前より計画していた与那国沿岸監視隊に到着したら塩満隊長はじめ幹部の方々が玄関でお待ちになっており、早速記念撮影をしたのだった。その後昼食もお待ちいただいたようで全員で金曜の定番のカレーランチをご馳走になった。そしていよいよ部隊見学をさせて頂いたわけだが少し概観も自衛隊の部隊らしからぬ外壁の塗装だったりとあちらこちらにアンテナがあつたりといつもの自衛隊の部隊と少し違うなと思わせる様相であった。後で聞けばここは、情報戦略地でもあるのであまり撮影等も許されていないのだということを書いて 3 年前に訪問した同様の離島防衛の要の部隊対馬警備隊と少し違う雰囲気を感じたのだ。なるほど国境の最前線部隊の緊張感を味わうことが出来た。まさに離島防衛国境警備の重要性を知ることになり改めて最重要任務地であることを知ったのでした。部隊訪問後周囲約 27 キロの島めぐりをしたが何しろ風が強いのに、驚かされた。島自体が小さいのと塩害もあり野菜等の作物は、本土のようにはいかないようであった。荷物の配送も本土からだとは 3 日から 5 日はかかるようなところだ

からここが日本最西端地であることが理解できます。夜は、宿泊先ホテルのレストランで貸し切りにて部隊の塩満隊長以下幹部の方々と忌憚のない意見交換をしながらの懇親会を味わいました。何と約 81mの強風がきた話を聞いて驚くばかりの島だと改めて“どなん島”を理解させられました。今は、部隊が正式稼働されているがこれまでの先遣隊の時が一番苦労したらしいとの話を聞いて本当に頭の下がる思いであった。ご苦労様でした。就寝後は、一晩中外が強風だったので何回も目が覚めたりした初めての与那国島の一晩だった。

明けて翌日は、今度は強風ではあったが一路那覇空港に向けてすんなりと飛び立つことが出来わずか 1 時間強で到着した。あいにく雨であったが最後の日なので全員で世界遺産の首里城見学をして今回の研修会を締めくくりとした。とても今までの研修会の中でも印象深いものとなった。

とりわけ 2 泊 3 日でも盛り沢山の予定と充実した計画を立てて頂き我々参加会員を導いていただいた陸幕防衛課編成班竹永 2 佐には、大変感謝を申し上げたい。それを見守って下さった防衛課にも感謝です。さらにこれらの計画を多忙にもかかわらず受け入れて頂いた第 15 旅団、第 9 航空団、沖縄地本、そして与那国沿岸監視隊の皆様には、大変お世話になり感謝を申し上げます。一部ハプニングは、ありましたが大した事故もなく無事に皆が帰京でき幸いでした。有難うございました。

以上



防衛施設の有無

陸幕防衛課のご尽力で那国島駐屯地を視察することができました。

開設されて1年経過しておりますが、隊員の皆さんが地域住民に配慮し、共存している様子が良く理解できました。国防を担う自衛隊員の皆さん本当に有難うございます。

与那国島は日本国の最西端に位置し、目と鼻の先が台湾である。なのに、なぜ今まで自衛隊の施設を作らなかったのか、と思われました。台湾は立派な独立国家として認められ日本とは友好関係にあります、一つの中国を掲げている中国が統一を諦めるとは到底思えないし、大国の論理でいけばいずれは一つの国になる可能性が大である。海洋資源、地政学的にみても中国にとっても日本にとっても南西諸島は重要な地域である。

この先日米安保がどれだけ日本に有利に機能するか甚だ心もとない。今はまだ日本に国力もあり、アジア地域での多額の防衛費負担を日本が担わされている間は心配ないが、この先国力が衰退しアメリカにとって中国と日本との貿易比率等を比較しアメリカが国益を優先した場合、日本より中国を重視する可能性も十分あり得ると思う。そんな状況下になった場合でも、離れ小島で防衛能力も低い自衛隊の施設があれば、万一他国の侵略があった場合同盟国アメリカも日米安保の名の下に日本の軍事施設の有事と捉え、放置するわけにはいかないだろうと思う。

例えば竹島の領有権問題について、近い将来朝鮮半島が統一され隣国が強硬に領有権を主張された場合、日本の国民性からしてなし崩し的に諦めざるを得ない状況になっていくのではなかろうかと危惧される。アメリカは両国とも同盟国であり、日本にも韓国にも肩入れせずに当事国の問題としてとらえた対応になると思える。これが高度成長期に韓国に対し多額の無償円借款を行っていた時期なら容易に自衛隊施設設置が可能で、違う展開になっていたであろうと容易に推測できる。もう少し国を憂いる指導者がいればと残念に思います。

竹島の二の舞にならない為にも、今回の与那国島への自衛隊配備が如何に重要であるかが理解できそうです。

マスコミ等が有事の際の島民避難等について論じていますが、論外で今の防備では他国の侵略には1日と持たない気がいたしました。

今回の与那国島訪問は、近隣諸国の複雑な状況下、国の安全を考えた場合施設の存在そのものが重要であり、これが離島防衛につながっていることを改めて考えることができた良い機会でした。



陸上自衛隊与那国駐屯地

シンボルのバッジ

与那国島研修報告

三度目の沖縄でしたが本島以外は初めてでした。観光で来た時とは違い、那覇到着後すぐ沖縄第15旅団に入りましたがそこだけ違うという感じではなく街のその場所にあるという印象でした。そのあと第9航空団に行くとともに沖縄なんだと思いました。F15の操縦席にのぼった？時は少しの間でしたがとても嬉しかったです。まあその後操縦席から出られなくなりちょっと慌てましたが、この体型なのでご愛嬌です！その晩の旅団長以下幹部の方々との懇親会はお酒も入り、旅団長の熱い話もなかなかでした。翌日いよいよ与那国へ！出発に関しては会長の寝坊から始まり離陸までいろいろとあってせわしない朝でした。それから与那国に着くまでは、途中石垣島に変更になったり、結構揺れたり話題いっぱいの飛行体験でしたが無事に到着、飛行機の中から与那国駐屯地の建物らしきものが見えてきたときは、やっと来られたなあとと思いました。馬や牛がすぐ近くにいる馬の糞が道路の歩道に至る所にあり、島の環境を維持して島の方たちとどう接していくか、皆さん苦慮しながら日本の最西端の地で頑張っている隊員の方たちとお会いでき、訪問できたことは自分にとって有意義な素晴らしい体験となりました。その晩の懇親会は、とても楽しい会で時間があっという間に過ぎていきました。隊員の方たちの苦労話はもちろん、そこで楽しみを見つけて与那国島の素晴らしさを語る時のうれしそうな顔も見れました。

お料理もおいしかったですね。特に隊員の方がこれがおいしいんですよと追加してくれた唐揚げは美味しかったです。

与那国島を立つ朝の空港の売店で、地元のおばあさんに与那国は良いところ、どなんじまへまたおいでねと島言葉でゆっくりと言われ、島を一周した時の記憶がパーと浮かんできてその余韻のまま那覇へ。大変お世話になった防衛課の竹永2佐と別れ首里城へ行くと観光客の中に混ざり島とは違うなと思いました。でもまた食べ物話になりますが、首里城のレストランで食べたアイスクリームは美味しかったです。

清風会 会計

山崎 伸子



沖縄から与那国島に向かって飛び立ちましたが悪天候のため石垣空港に引き返すことになりました。天気の回復を待っていましたが、最悪の場合、飛行場に泊まることになるのかと思っていますと、再チャレンジするので希望者は搭乗してくれとのアナウンスがあり、再び与那国島にむかいました。与那国空港の上空まで来ましたが、視界が悪くすぐには着陸できない様子でした。30分ほど旋回し着陸しました。

出発前の那覇空港はこんなにいい天気でした。





最西端の碑



ドラマ ドクターコトーのロケ地入場料がいるようで



泊まったホテル。



稚内

“稚内・礼文島研修会を終えて” 平成 30 年 7 月 29 日（日）

“宗谷海峡を挟みロシアとの国境を警備する部隊研修を終えて”

2014 年 10 月 29 日（水）“対馬研修会”を皮切りに我が清風会としての離島防衛の実参実究が始まった。お隣の韓国釜山迄わずか約 50 キロの距離をこの目で見届けて改めて日本の防衛の最前線に触れた感動を覚えた。それから次を開催しようと言う意見が出始めた頃には、かの国、中国側からの尖閣諸島への接近が頻繁になっていた。改めて日本国防の南西諸島への危機意識が大きくなり、ついに日本の最西端の与那国島への沿岸監視隊の新設へとつながった。そんな時に今度は、会員からぜひ与那国沿岸監視隊への研修会をやろうという意見もあり対馬研修会実施以来およそ 2 年半後の 2017 年 3 月 9 日（木）から沖縄・与那国島研修会を実施することになった。ここでも改めて南西諸島防衛の最前線に触れて見ることによっていよいよ国防の重要性を知ることになった。まして沖縄第 15 旅団と第 9 航空団への研修会も実施したから余計に重要性を知る研修会となった。台湾との距離約 60 キロ、来て見なければ想像がつかなかったのが現実だった。

この研修会を終えてから誰彼となく出たのは、どうせ最西端を見たのだからこの際、最北端への研修会も計画してみようという話になってきた。以来約 1 年位かかり本年（2018 年）7 月 12 日（木）からついに稚内・礼文島研修会を会員 6 名と防衛課随行 1 名の計 7 名で実施することになった。関東エリアの今年は、早い梅雨明けで連日 30 度を超す夏日の多くなる日々を送っていたので果たして日本の最北端の天気が気になり 10 日前位より気温や天候を気にしながら当日を迎えた。予報では、雨は大丈夫そうでおおよそ 20 度前後の気温とのことなので、長袖を 2 枚程持参した。いざ北海道稚内空港に到着し私自身含め参加者全員が初めての稚内市上陸で感慨深いものがあった。オー涼しいじゃないか！！が第一声となり以降稚内第 301 沿岸監視隊のマイクロバスにて最北端の地、宗谷岬見学から始まり日本でも珍しく陸・海・空部隊が同一場所に存在しているので 3 自衛隊の隊長との懇談も興味深い物であった。北の脅威に対しての国防の最前線（宗谷海峡）に触れてみて身震いがしてきていた。さらに夜は、3 自衛隊の隊長との懇親会もとても忌憚のない意見交換ができ、大いに交流を深める事が出来た。一夜明けた朝の天候は？と気になりながらホテルの部屋の窓から見たら道路一面雨で濡れていてキリもかかり前が見えない天候であった。それでも一般観光客も多いこの時期ならではであったが予定通り一路、利尻島経由で礼文島（香深港）上陸した。何と全く周りも見えない位の一面キリで覆われている状況の中第一歩を踏み出した。そこには荒屋隊長始めとする沿岸監視隊分遣隊の幹部の皆様がお出迎えを頂いたのには驚いた。荒屋隊長とは一度だけお目にかかっていたが最初は、気がつかなくてしばらくしてアッと思い隊長自らがお出迎え頂いたのには又ビックリ

だった。それから、部隊マイクロバスにて荒屋隊長の車内での説明を受けながら香深港から船泊村にある部隊へと進んでいった。その頃もまだキリが覆っていてほとんど周辺は、見渡せないほどであったがいよいよレーダー基地らしい建物を見て改めて日本最北限の最前線（海上交通路の要衝）に到着したと身震いがした。礼文分屯地から樺太クラリオン岬まで約 97 キロ、モネロン島まで約 90 キロと常に北の脅威と隣り合わせの情報基地としての建物、レーダー等目視のみ写真撮影厳禁と今まで 2 島の対馬警備隊と与那国島監視隊と同様で物々しいまさに最前線部隊であると感じた。部隊到着後は、荒屋隊長のブリーフィングから始まり部隊見学をしながら冬は、本当に苦勞すると聞き最北限に勤務することの限界を隊員たちの気持ちになると切ない思いになりました。それと島特有の風が常に強く吹いているとのことで前 2 島のケースと同様で隊員たちの気持ちになると心が痛くなります。これが現実でした。南北約 30 キロ、東西約 8 キロ、周囲約 72 キロの面積約 82 キロ

平米の小さな島であるが日本の防衛上非常に気の置けない海上交通路の要衝を警備する部隊であるということがよく理解できた。それも地元住民との交流やら地域の各種行事支援と町内の方々との連携を数多くこなしながら礼文町にはなくてはならない分遣隊になっているようだ。昼食もわざわざ島の方に作って頂いた珍しいトドのお肉入りのなかなか美味なお弁当を戴いた後は、島内一周研修ということで部隊マイクロバスにて隊長以下幹部の方々も島内景勝地等きれいな礼文島の見学をさせて頂き心がホッとする自分に気づかされた。北端のスコトン岬、ゴロタ岬、スカイ岬、久種湖、桃岩、桃岩展望台、猫岩、元地海岸、元地灯台と素晴らしい景色の数々を見せて頂いた。途中には礼文固有種レブンアツモリソウの群生地やらレブンソウ、レブンキンバイソウ、レブンウスユキソウ等の礼文島ならではの高山植物（本州では 2000m 級以上の山岳地帯）も丁度見ることもできホットした。さらにこの時期ならではの一般観光客のトレッキングをされている方の多さには驚いた島内研修も終わり宿まで送って頂いたがまだ感動が！！

さて夜は、西野分屯地班長の心遣いによる懇親会、まさに清風会との交流が深まる懇親会となり深く痛飲したようで皆で盛り上がっていた。これが荒屋隊長始めとする幹部の方々に失礼がなかったかと少し不安になりましたが、大丈夫だっただろうか？

翌朝は、何と 5 時前後は、青空が宿の部屋の窓越しに覗いていたがアツと言う間に一面キリが覆うようになって宿を出発する頃には、もうキリで全く見通しが利かなかった。

そして香深港への道は、何と荒屋隊長以下幹部の方々がマイクロバスで迎えに来ていて本当に昨夜あれだけ盛り上がったので朝また制服で香深港迄お見送りを受けることになり本当に感謝でした。カーフェリー乗り場では、沢山の一般乗客がおりその中でのお見送りなのでまさかこんな北限に自衛隊が存在するとは思わなかったような顔で皆さんが見て

いたのが印象深く、これが自衛隊の果たしている役割なのだと改めて知る素晴らしい機会となった。そして朝 8 時 45 分発で一路稚内港に向けて出港したが又感動を受ける出来事に遭遇した。何と荒屋隊長、西野班長、吉井班長、衛藤 2 曹が岸壁からお見送りをしてくれていたのだった。こんな事があるのかと本当に嬉しくてつい私も両手を振って別れを惜しんだ。同時に参加者の皆も両手を振って別れを惜しんだのだったが、いざ出港してからもまだ岸壁から隊長始め皆さんが手を振ってくれていてもう船でのお別れというのは、

こんなに感動するのかと改めて感銘し少し涙腺が緩んだようで本当に礼文島が心残りで気持ち一杯になった。そうこうしているうちにキリも晴れてきて少しづつ青空も見えたりしていた。船内は、満員であったが誰彼となくデッキに向かうので外を見たら何とこの研修会で初めての利尻島の利尻山“利尻富士”（1721 メートル）をはっきり見通せるように姿を現してくれたのだった。船上では、写真を撮るのに大騒ぎ状態となり見知らぬ人同士でも”素晴らしい景色で感動!!”の会話で持ちきりの中、無事に稚内港に到着した。この頃には、もう天気も回復し 20 度を超える位で今度は、暑くもある稚内市内であった。

その後市内で思いにふけりながら体を休めたりして昼食をとり全員無事稚内空港に戻って来て予定通り 15 時 45 分発羽田空港行きで帰京した。

以上 2 泊 3 日のこの研修会も参加者が無事に帰京し、終了する事が出来たのは、陸幕防衛課の皆さんと随行頂いた枝次 2 佐並びに自衛隊の皆さんのお陰と改めて心に残る感動の場面を作って頂いたなあと感謝、感謝でした。お陰さまで日本は、またまた南北に細長く広いのだと認識できた。そして離島防衛への研修会は、これを持ち実参実究の完成かなとも思うが次は??

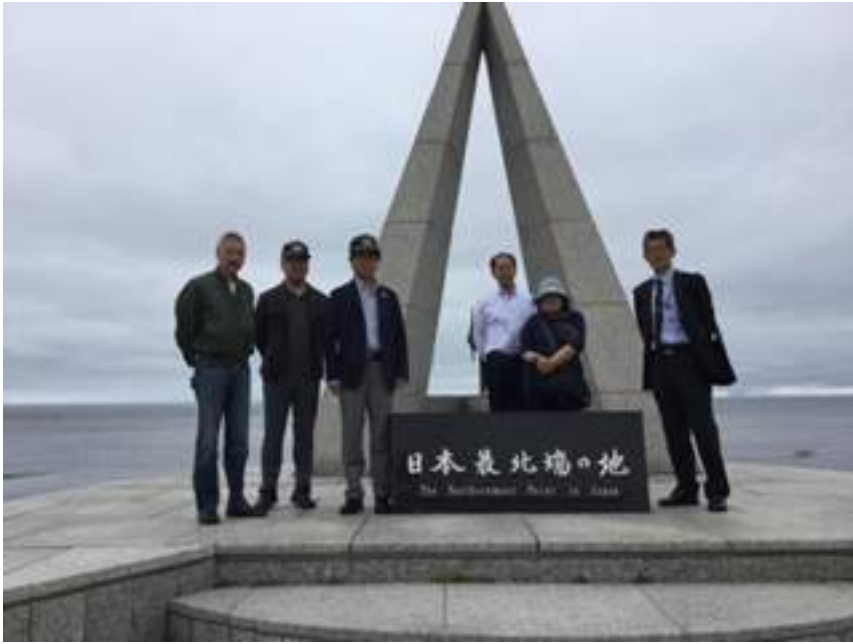
南西諸島もそうだが北の脅威（海上交通路の要衝）も忘れられないことに気づかされた今回の研修会であった！！

さて、この稚内・礼文島研修会を通して自衛官たちの何処のいかなる場所であっても弛まない勤務実態に触れてみて本当に頭の下がる思いで一杯になった。

自衛官たちは、どこの部隊研修会に行っても素晴らしい交流をさせて戴くと同時に清風会の皆の心に一生残してくれる感動を与えて頂く方々だと感謝です！！応援しています！！

ありがとうございました！！

GIAS 清風会会長 古川原 直久



稚内到着、今回のメンバー全員です宗谷岬最北端の地



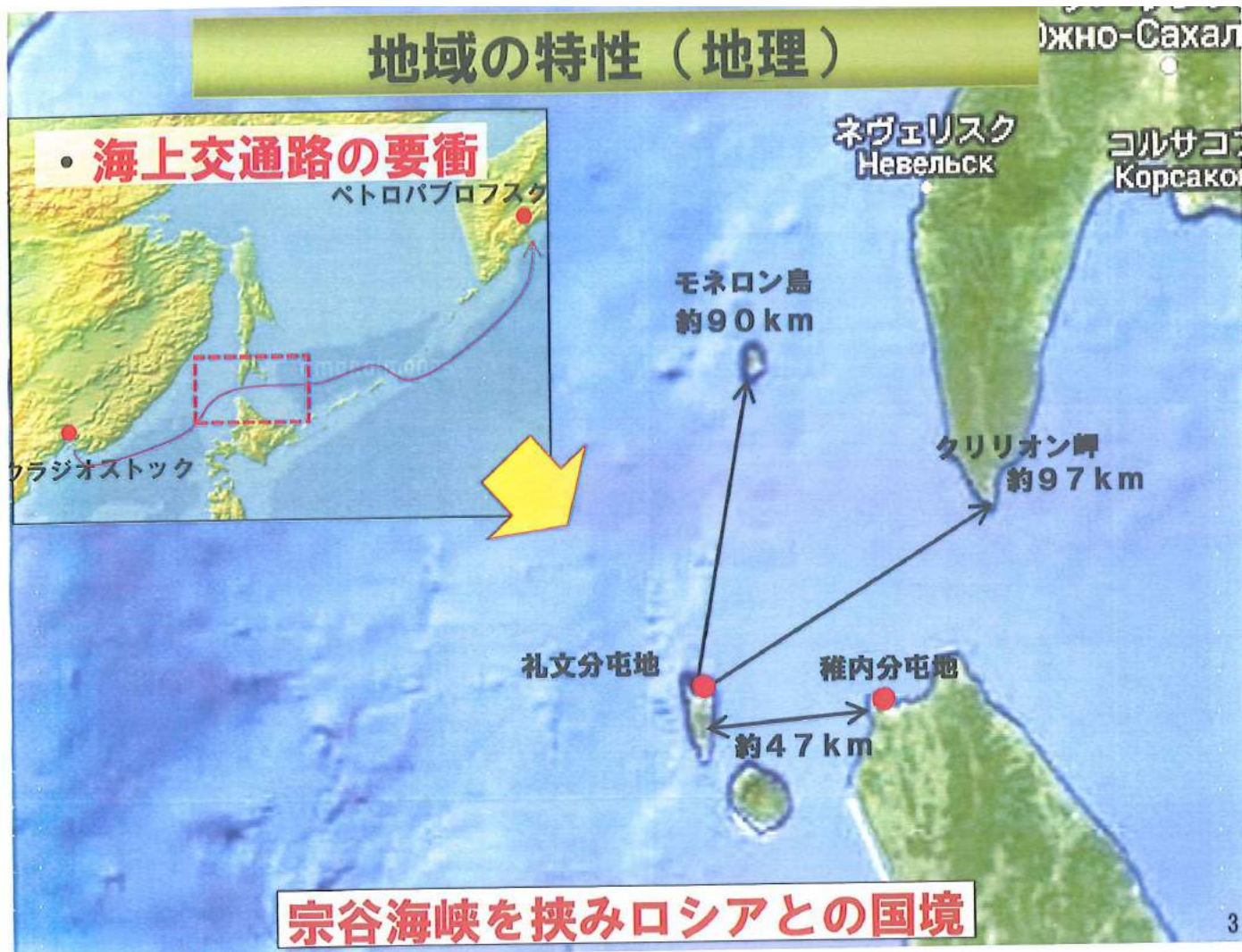
間宮林蔵の立像生誕 200 年の昭和 55 年に建立し

北防波堤ドーム
全長 427m



稚内分屯地は、ノシャップ岬近くの北海道稚内市恵比須に所在し、航空自衛隊、陸上自衛隊、海上自衛隊や情報本部の分遣班が共同使用している防衛省施設における陸上自衛隊としての呼称。名寄駐屯地の分屯地として運用されている。





副会長 平 出 一 栄

礼文島、香深（かふか）の港を出るフェリーは濃い霧に包まれていた。平成30年7月14日、夏の日朝のことである。

霧は、稚内に降り立った前々日から我々一行につきまとい、その冷氣とともに、北の果ての地の夏を感じさせるものであった。そして、稚内でも、その後に訪れた礼文島でも、この霧のために利尻山、利尻富士とも呼ばれる、その姿を見ることは適わなかったのである。

今回の、稚内・礼文島研修会は、当会（清風会）の「離島防衛研修」の第3回目、このテーマでは、ひとまずの締めくくりとなる研修会であった。

この3回の研修会の研修先と日程は、以下のとおりである。

- | | |
|------------|-----------------|
| ① 対馬部隊研修 | 平成26年10月29日、30日 |
| ② 沖縄・与那国研修 | 平成29年3月9日～11日 |
| ③ 稚内・礼文島研修 | 平成30年7月12日～14日 |

いずれも、行ってみなければ分からない気づきがあったし、自衛隊の隊員の方々の日々の、縁の下での力持ち的な地道な職務遂行が抑止力になっているということが分かったというか、あらためて確認できた。この研修会の大きな成果である。

各研修会における、個人的な感想。

① 対馬

対馬は広かった。思っていたよりずっと大きな島だった。これも行ってみて分かったことである。

それから、元寇の小茂田浜（こもだはま）に立って、宗資国を想った。

そして、海上自衛隊の防備隊本部の敷地に隣接して、韓国資本に買収された韓国人向けリゾート施設があることも分かった。

② 沖縄・与那国

沖縄では、陸上自衛隊の第15旅団司令部を表敬訪問。その後、航空自衛隊の那覇基地にて、F-15Jのパイロット、救難ヘリの隊員より、レクチャーを受けた。

翌日、与那国駐屯地への慰問については清風会先遣隊に任せて、私は那覇市内を歩いてみた。市庁舎から那覇港へ向かう大通りを歩いていくと、

巨大な龍柱が見えてきた。福州園を散策してみようかなと思ったが、入園するには、住所・氏名を書くようにとの指示が書いてあった。

③ 稚内・礼文島

稚内基地分遣隊、礼文分屯地へ訪問し、レクチャーを受けた。宗谷海峡が、ロシアの原潜基地と極東の海軍基地であるウラジオストクを結ぶ要衝であることが分かった。

礼文島内を観光していた時、中国語の声、それも若い女性の声が聞こえてきた。

こうして、離島防衛研修を、ひとまず終えた。

礼文島を離れたフェリーの中で、心残りがあった。利尻富士。

稚内に向かうフェリーは霧に包まれていた。無念の思いでデッキに立ち、厚い霧と、わずかに見える海面を眺めた。

船内に戻り、同行の友人に、残念だけれど（利尻富士は）見えないと、そう伝えようとしたときである。未練にも、窓を見た。なんと、そこには利尻富士。

見えた。利尻富士が見えた。その凜たる姿が見えたのである。

以上

陸自最北の稚内分頓地、礼文島分頓地を訪問して

理事 太田博己

清風会「離島防衛研修シリーズ」の最後の研修先としてとして、稚内分頓地、礼文島分頓地を視察することが出来ました。今回も清風会メンバー6名と陸幕防衛課の随行者1名の7名での訪問でした。

稚内分頓地内には空自、陸自、海自の其々の施設、駐屯地が同じ敷地内で共同使用している珍しい基地でした。旧ソ連の侵攻を考慮したのか、終戦間もなくから米軍が駐留しており、通信の傍受や宗谷海峡での船舶監視を行っていたようです。その後、空陸海の自衛隊が駐屯し監視を続けています。今回は対馬と比較し、とてもチームワークの取れた自衛隊をみれた事が、大きな収穫でした。

それと礼文島を離れる際、港での見送り時、陸自の迷彩服の存在感の大きさに大変感激を致しました。

最後に昼夜を問わずの通信傍受や、冬季の極寒の離島での船舶監視等に励んでいる自衛隊員並びにそのご家族の皆様に敬意と感謝を込めて**敬礼！**致します。

離島防衛研修感想文

稚内・礼文島研修報告

私はこの研修が決まった時、はるか昔大学の研究室の礼文島研修に参加できなかったのも、やっと礼文島へ行くことが出来るととても嬉しかったです。期待で胸いっぱいの出発です。稚内に到着、稚内分頓地の隊員の方が出迎えて下さり宗谷岬などを案内していただき部隊へ。冬は吹雪で外出が出来ない、目の前の官舎にすらいけないくらいの吹雪だと説明を受けましたが想像もつきませんでした。晴れていれば利尻富士が見えるという基地の裏側に行きましたがあいにくの曇り空で何も見えませんでした。

翌日いよいよ礼文島へ出発です。この日も曇り空で途中利尻島へ寄りましたが利尻富士を見る事はできませんでした。そして礼文島へ到着。沿岸監視隊の隊長以下隊員の皆様が出迎えてくれました。最北端の島は、何ヶ月かの間だけ咲く可憐な花達と海からの豊富な海産物が我々を迎えてくれました。隊員の方たちはそれはユニークな方々でとても楽しい時間でした。大半の季節は厳しい環境での勤務となります。過酷な冬との戦いは長く厳しいもので、雪が降り積もり除雪車が動かなくなった時の大変さを面白おかしく話してくれました。基地の中は長い冬に備えた工夫がありました。その冬を知らない私にはただ頷くだけでした。何日もこの中に閉じ込められる事

もあり、これまでの離島でも感じましたが、こうして勤務する隊員の方達がいることで成り立って行くのだと深く感じました。

その夜の懇親会は大盛り上がり！最高のおもてなしをされました。翌日の朝の見送りまで完璧でした。そして最後に姿を見せた利尻富士、とても印象に残る研修の締めくくりとなりました。

対馬、与那国、そして礼文と研修を終えて、それぞれの島の離島防衛に触れ、いかに大変な任務を隊員の皆さんが担っているのか肌で感じる事ができました。

日夜勤務する隊員の方々、どこでも気持ちよく接して下さる隊員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

清風会 会計 山崎伸子



礼文島



桃岩展望台 右の端にあるのが猫岩





スコトン岬は礼文島最北端の地で、正面には無人のトド島が浮かび、晴れた日には遠くサハリンを望むことができます。



澄海岬



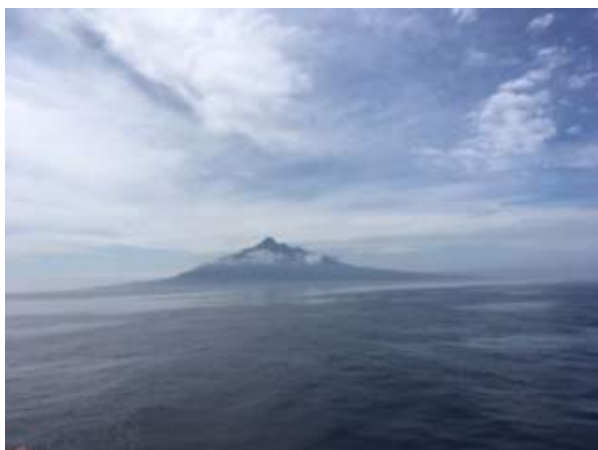
北のカナリアパークは 2013 年 7 月 27 日にオープンしました。
映画のロケ地として有名です。



利尻富士がここから後ろの写真の
ように見えるようですが、あいにくの
天気で見ることができませんでした。



帰りのフェリーから見ることができ





フェリー乗り場まで送っていただきました。



隊長から敬礼で、お見送りいただきました。



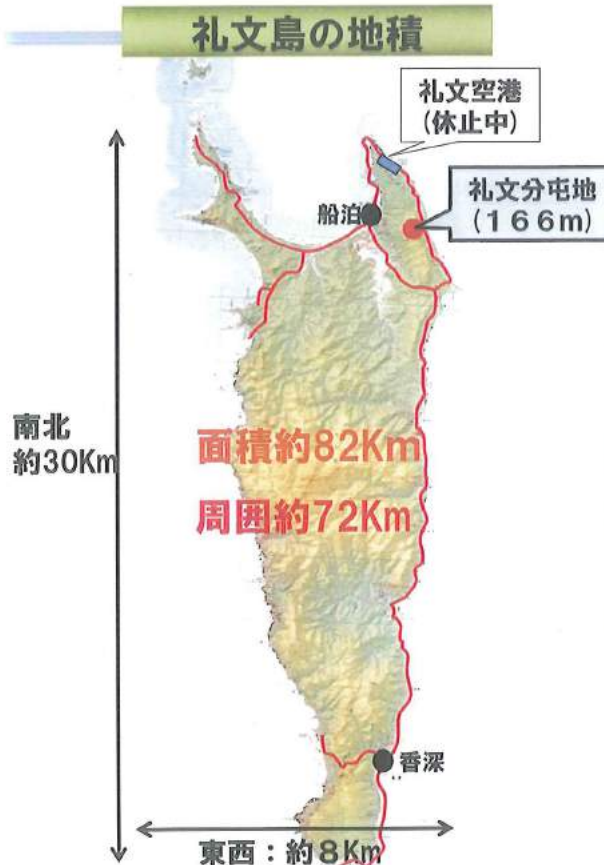
見えなくなるまで、お見送りをいただき本当に感動いたしました。
感謝の気持ちでいっぱいです。



清風会 礼文来島記念
平成30年7月13日(金)



清風会 礼文分屯地研修
平成30年7月13日(金)



花の浮島 礼文島

高山植物：海拔0mから鑑賞
(本州では2000m級以上の山岳地帯)

昭和49年「利尻・礼文・サロベツ国立公園」に指定

地域交流の取組

協力会との交流



- 隊員の歓送迎会の共催
- 曹友会行事への招待
- 分屯地創立記念行事の共催
- 年忘れ大会への招待
- 第2音楽隊巡回演奏会協賛
- 町の各種行事への部隊招待

各種行事支援



- 礼文町クリーン作戦
- 神社祭
- 湖畔祭り
- オータムフェスタ
- はちまる交流会
- 除雪ボランティア

11

地域との連携への取組

H23 礼文町防災訓練



H24 総合戦闘力演習



H26 第2飛行隊との協同訓練



H29 第2音楽隊巡回演奏会招致



災害・災害派遣

過去15年間の災害発生件数							
火災	雪崩	豪雨	波浪	地滑り	積雪	強風	合計
9	9	12	7	4	5	11	57

過去の災害派遣		
時期	災害内容	派遣規模
平成7年7月7日	礼文岳行方不明者捜索	人員 16名 車両 3両
平成22年5月4日	高山地区山林火災消火	人員 11名 車両 2両

対馬、

九州の北方の玄界灘にある、長崎県に属する島で、対馬市は1島1市体制である。面積は日本第10位である。山林が面積の89%を占める自然豊かな島で、原始林が残り、国の天然記念物に指定されている。島の地形は標高200m~300mの山々が海岸まで続き、高さ100mの断崖絶壁もあり、勇壮な自然を目にすることができる。壱岐対馬国定公園に指定されている。

面積: 708.7 km² 標高: 649 m

与那国島

南西諸島八重山列島の島。日本の最西端に位置する国境の島である。隣接する台湾とは、約111kmの距離にあり、年に数回、台湾の山並みが見えることもあります。荒々しい波が打ち付ける断崖絶壁の景観は、迫力があり圧巻である。沖縄本島から南西へ約509km、石垣島から約127km、東京から約1,900km。ちなみにフィリピンの首都マニラからの距離は1,116kmで東京よりはるかに近い。周囲27.49km、面積28.96km²

沖縄本島、

県庁所在地であり沖縄県最大の都市である那覇市には、再建された琉球王国の宮殿、首里城がある。首里城はグスク時代から残る琉球の城塞の一つで、華麗な守礼門が特徴です。沖縄県立博物館・美術館には、沖縄の自然遺産と文化遺産のほか、美術品のコレクションも展示されています。国際通りには、さまざまな店やレストランが軒を連ねています。

面積: 1,207 km²

稚内市、

日本国内の最北端に位置しており、その最北端の地が宗谷岬で、オホーツク海に面しており宗谷湾をはさみ向かい側にはノシャップ岬があり日本海に面している。サハリン州をはじめとする北方圏への玄関口になっている。

面積: 760.8 km²

礼文島

稚内の西方60kmの日本海上に位置し利尻島の北西に位置する。特異な気候により、なんと海拔0メートル地帯から200種類以上の高山植物が咲いているため、別名花の浮島と呼ばれている。

最大幅: 8 km 標高: 490 m 地域: 80 km²

A white seagull is captured in mid-flight, its wings spread wide, against a backdrop of a vast blue ocean and a clear sky filled with scattered white clouds. In the distance, a prominent mountain peak, likely Mount Fuji, rises above the horizon. The perspective is from the deck of a ship, with a portion of the ship's railing visible in the upper right corner.

編集後記

対馬・最西端与那国島・最北端礼文島と3年間かけた離島防衛視察研修を2018年7月に終わりました。島々の駐屯地の何処にお邪魔しても歓待を受け島の端から端まで案内をしていただきました。与那国島以外は実行部隊がないので思いのほか少人数で任務にあたられていることを知りました。最西端から最北端をめぐる日本も広いなと感じました。しかし、我が国は島国です。日本の国境線は海にあります。陸地は小さいですが世界6位の海域を持つ海洋国家です。この三島の一つでも欠けたら海域は大きく縮小することになります。日本の島は一つたりとも渡すわけにはいきません。

離島防衛の重要性を改めて実感しました。

広報担当 駒田量明